

観光キャンペーン推進事業費

事業評価個票（事業実施：平成30年度）					部局名	観光文化スポーツ部		
短期アクションプラン	テーマ	テーマ5 世界に誇る山形の魅力を発信し国内外の旺盛な活力を引き込む「観光立県山形」の確立						
	施策	施策2 観光資源の高付加価値化と戦略的誘客の強化						
	目的	県内にある雪や滝などの豊富な観光資源の高付加価値化に取り組むとともに、ターゲットを明確化した戦略的誘客を展開し、旅行商品の販売を拡大する。						
	目標指標(R2)	観光消費額	2,500億円					
	策定時の実績	2,015億円(H27年)	現状	2,168億円(H29年)	主要事業	戦略的誘客の強化		
事業名	観光キャンペーン推進事業費			担当課・担当	観光立県推進課 観光振興担当、美食・美酒ツーリズム推進室			
事業開始年度	平成10年度			事業終了(予定)年度	未設定			
事業の目的 (目指す姿を3行程度で簡潔に)	本県のイメージアップ及び観光客の誘客拡大と受入態勢の整備促進に必要な諸事業について、官民一体となって総合的に推進することにより、本県の観光及び産業の発展並びに地域振興に寄与することを目的として、やまがた観光キャンペーン推進協議会への負担金を通して観光キャンペーン事業を展開する。							
事業概要 (5行程度で簡潔に)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・JR東日本、東北6県と連携した「H30冬の観光キャンペーン」の展開</li> <li>・花回廊の全県展開及びJR東日本と連動した「H30春の観光キャンペーン」の展開</li> <li>・戦略的な情報発信(山形観光情報サイト、各種メディアによる情報発信)</li> <li>・地域別キャンペーン支援事業(地域の誘客対策、2次交通対策)</li> <li>・旅行商品造成タイアップ</li> </ul>							
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託・請負 <input type="checkbox"/> 補助 <input checked="" type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> 交付 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> その他 上記実施方法とする理由：行政及び民間で組織される「やまがた観光キャンペーン推進協議会」を推進母体としているため。							
予算額・決算額 (単位:千円)	費目(予算見積書のグループ名)	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度		
	観光キャンペーン推進事業	29,160	29,160					
	計	29,160	29,160	0	0	0		
財源内訳 (単位:千円)	国庫支出金							
	繰入金							
	その他特定財源							
	一般財源	29,160	29,160					
	計	29,160	29,160	0	0	0		
活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標		単位	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	令和元年度 観光者数4,700万人	活動実績	万人	4,512	調査中			
		当初見込み	万人	4,620	4,660	4,700		
成果指標及び成果実績 (アウトカム)	成果指標 (所管部局の分析)		単位	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	平均宿泊数	成果実績	泊	1.22	1.28			
		目標値	泊	全国平均値(1.32)以上	全国平均値以上	全国平均値以上		
		達成度	%	92.4				
関連事業	観光誘客総合推進事業費、新潟・庄内DC誘客推進事業費							

事業目標の考え方(事業目標設定時)

おもてなし山形県観光条例(平成26年4月1日制定)に基づき策定された、おもてなし山形県観光計画(平成27年3月策定)により、本県の観光の姿は、「県民の総参加」と「全産業の参加」による観光振興施策の実施を通して、観光による国内外との交流人口の拡大を図り、本県経済を持続的に発展させるとともに、魅力ある活力に満ちた地域社会を築くことによって、「観光立県山形」を実現していくこととされている。  
 当該計画では、観光流動の創出による好循環の実現を掲げ、計画の最終年次である令和元年までに、地域経済への波及の効果を示す「観光消費額」を2,500億円に引き上げることが政策目標とされており、また、令和元年度までに「観光者数」が4,700万人を上回ることが参考管理指標とされており、おもてなし山形県観光計画に定めた目標値を設定した。

事業所管部局による評価・検証

	項目	評価	評価に関する説明
事業目標の妥当性・達成度	事業の目的は県民や社会のニーズを的確に反映しているか。	A	・JR東日本や市町村、観光事業者と連携し、地域資源の発掘や磨き上げ、受入態勢の整備を行い、誘客促進が図られた。 ・「やまがた観光キャンペーン推進協議会」を推進母体として官民一体となり、観光者ニーズを取り入れた効果的な事業を総合的に推進することで、観光消費額も年々増加している。
	明確な政策目的(成果目標)の達成手段として位置付けられ、優先度の高い事業となっているか。	A	
	目標水準は妥当か。	A	
	期待する成果が得られたか。	B	
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	A	
事業内容の妥当性	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	A	・協議会の経費については、業務実施に必要不可欠な費用に限定している。 ・関係機関と連携し、役割分担しながら効果的に事業を実施した。
	支出先の選定は妥当か。	A	
	受益者との負担関係は妥当であるか。	A	
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	A	
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。	A	
類似の事業がある場合、他部局等と適切な役割分担を行っているか。	A		
の役割分担	市町村、民間等に委ねることができない事業なのか。	A	・市町村や民間からも応分の負担をもらっており、関係者と一体となった事業推進を行っている。
今後の課題等	・冬期間の観光誘客の底上げを図るため、雪をテーマとした各地域の観光資源に加え、「美酒・美食」を盛り込んだ各種媒体の活用により山形の冬の魅力を発信する。 ・新潟県・庄内エリアDCによる誘客効果を県内全域に波及するよう各地域独自の取組みを支援する。		

・事業所管部局による評価にあたっては、以下の4つの選択肢から、1つを選ぶこと。

A: 目標を上回って達成する見込み。期待通りの成果(100%以上)。妥当。

B: 目標を概ね達成する見込み。概ね期待通りの成果(80~99%)。概ね妥当。

C: 改善の余地あり。期待した成果を下回っている(79%以下)。

ー: 該当しない